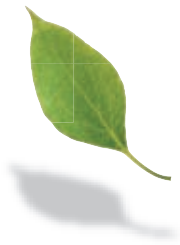


ENVIRONMENTAL REPORT  
2008

東洋鋼鋅グループ  
2008年 環境報告書



 東洋鋼鋅株式會社



# CONTENTS

会社概要	1
ごあいさつ	2

## 環境マネジメントシステム

---

1. 環境方針	3
2. 環境目的、環境目標および活動結果	4
3. 環境マネジメントシステムの状況	6

## 環境負荷低減への取り組み

---

1. 物質フロー	7
2. 省エネルギー・省資源	8
3. 二酸化炭素の排出抑制	9
4. 水域への排出抑制	9
5. 廃棄物の排出抑制	10
6. 環境リスクマネジメント	10
7. 環境関連法規制への対応	11
8. 省エネ設備の紹介	11
9. 環境に配慮した製品開発	12
10. 環境会計	14
11. 環境トピックス	15

## 社会との共生

---

1. コーポレート・ガバナンス	16
2. コンプライアンス	17
3. 社会貢献活動	20
4. 社会とのコミュニケーション	21
5. 従業員とともに	22
6. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント	25
7. 品質マネジメントシステム	26

東洋製罐グループとしての活動	27
----------------	----

---

環境保全活動の歴史	28
-----------	----

---

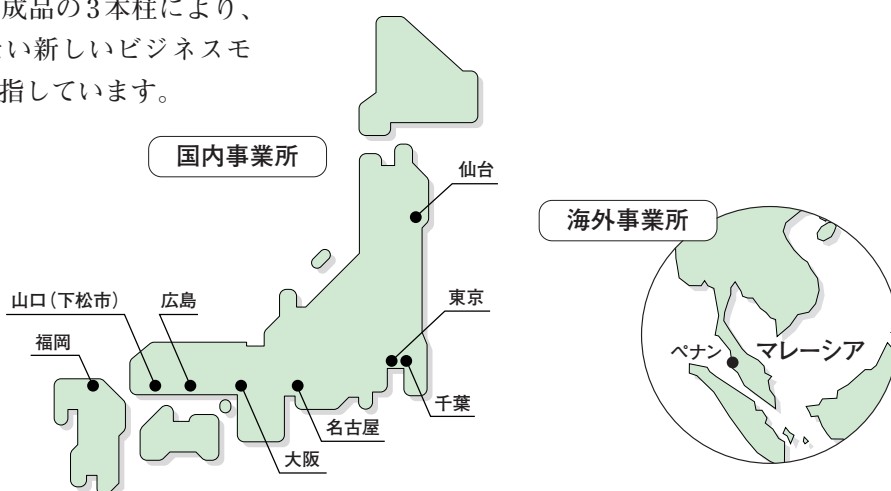
## 会社概要

東洋鋼鋳は、1934年の創業以来、快適で潤いある暮らしに欠くことのできない素材である「鉄」の豊かな可能性に着目し、表面処理鋼板界のパイオニアとして発展してまいりました。

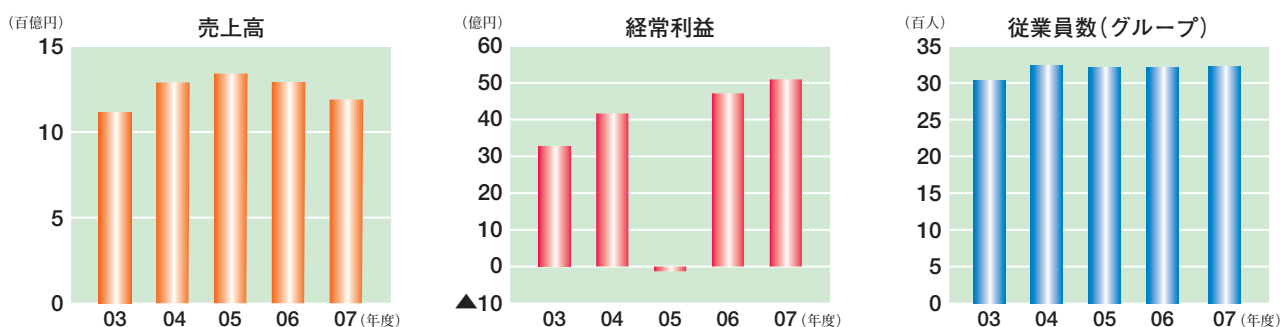
最新鋭の設備と高度な技術力を背景に、缶用材料をはじめ各種の高品質の薄鋼板、表面処理鋼板、高級化粧鋼板で優れた製品を世界に先駆けて開発、送り出し、多様なニーズにお応えしております。

鉄鋼から生まれた会社ですが、アルミや樹脂など鉄以外の素材価値も高めており、鋼板関連、機能材料関連、化成品の3本柱により、世界に類を見ない新しいビジネスモデルの会社を目指しています。

社名	東洋鋼鋳株式会社
英文社名	Toyo Kohan Co.,Ltd.
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	3,223名(2008年3月末)
売上高	1,193億円(2007年度、連結)
本社	東京都千代田区四番町2番地12
工場	山口県下松市東豊井1302番地
事業内容	ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板並びに各種機能材料等の製造・販売



### 売上高、経常利益、従業員数の推移(連結)



### ● グループ企業の事業内容

連結	国内	鋼鋳商事(株).....表面処理鋼板等の販売
		鋼鋳工業(株).....帯鋼および自動結束装置等の製造販売、硬質合金および磁気ディスク用基板の製造
		KYテクノロジー(株).....建材製品および梱包資材の製造販売、製材並びに木材の加工販売、建設業、建築設計並びに工事監理
	海外	TMT:ベナン.....磁気ディスク用基板の製造販売
非連結	国内	東洋パックス(株).....截断、検定、包装作業請負
		共同海運(株).....内航海運業、貨物利用運送業、通関業、海運代理店業
		下松運輸(株).....貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業、倉庫業
		東洋パートナー(株).....健保会館等福利厚生業務の請負および労働者派遣事業

## ごあいさつ



東洋鋼鋳株式会社  
代表取締役社長

田 中 厚 夫

いま地球温暖化問題をはじめ地球環境の保全が、世界的に重要なテーマとなっております。本年より二酸化炭素の排出量削減のための京都議定書の約束期間がスタートしました。社会が持続的に発展していくために、私たち東洋鋼鋳グループは率先して省資源・省エネルギー活動に取り組み、環境負荷の低減に努めてまいりたいと考えております。

当社グループは、「人と環境に優しい製品を安全に作ります」を経営の基本理念の一つに掲げ、省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組んでまいりました。2008年1月より稼働を始めた当社下松工場のボイラーは、環境省の設備補助事業に採択され、年間1万トン以上のCO<sub>2</sub>排出量を削減するとともに、自主参加型排出権取引制度に参画しています。また、製品に関しても、お客様の製缶工程での塗装や洗浄を省き、CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減や排水ゼロを実現する「環境にやさしいタルク缶」用のフィルムラミネート鋼板を国内、海外で展開しています。また、95%以上という高い反射率を持つ高効率反射材「ミラーコートK」、およびこの特性を活かし自然の光を室内へ取りこむ光ダクト『どこでも光窓』等の開発に取り組んでまいりました。ひきつづき、環境負荷低減のための「省資源・省エネルギーの推進」および「廃棄物の削減と再資源化」活動をエンドレスで進めるとともに、社会ニーズに積極的に対応した、製品の開発に努めてまいります。

最近、私たちのまわりでさまざまな偽装や事故、不祥事が報道されています。法令順守は企業経営の大前提であり、当社グループは、中期経営計画の柱として、「企業の社会的責任(CSR)の遂行」を掲げ、環境経営の徹底とともに、法令順守の徹底、内部統制の強化に積極的に取り組んでまいります。

この「2008年 環境報告書」を通じて、グループの環境方針に基づく環境マネジメントシステムの構築および活動状況(環境保全および負荷低減実績、製品の開発状況、コンプライアンス推進活動など)をご報告いたします。

私どもの環境活動をご理解いただくとともに、今後の活動をさらに改善、向上していくために、皆さまから率直なご意見をいただけましたら幸いです。



# 環境マネジメントシステム

当社下松工場は、1999年12月22日に日本検査キューエイ株式会社からISO14001:1996の認証を取得し、さらに2004年12月16日には、東洋鋼鋸全社に国内グループ企業を含め、グループ9社統合での認証登録が認められました。

グループ統合環境マネジメントシステムを環境経営の基盤とし、環境負荷低減活動を継続的に推進しています。

## 1. 環境方針

当社の環境方針は、下松工場における産業公害の廃絶と地域社会との共生を基本姿勢として1973年10月に制定して以来、環境問題が様相を変えるにつれ、公害防止から循環型社会の構築に向けて自主的に行動する方針へと数次にわたって改正を

行い現在に至っています。

現在の環境方針は、東洋鋼鋸グループとしてのISO14001環境マネジメントシステム認証取得後、2005年7月19日付けで改正されたものです。

### 基本理念

東洋鋼鋸グループは、地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細やかな配慮を行いつつ、持続的に発展する循環型社会の形成に貢献します。

### 行動方針

- 1) 地球環境の保全活動を推進させるため、必要な組織を整備します。
- 2) 法規、条例およびその他の要求事項を遵守するとともに、自主的な管理基準を設定し、環境管理の継続的向上に努めます。
- 3) 生産、販売する製品のライフサイクルにわたる環境負荷を事前に評価し、環境保全に留意した製品開発、技術開発を推進します。
- 4) 企業活動全般にわたり省エネルギー、省資源に努めるとともに、発生する廃棄物の減量化、再利用を推進し環境負荷を低減します。
- 5) 大気汚染物質、地球温暖化物質、有害物質など環境負荷の高い物質に関しては、可能な限り代替物質へ切り換えるとともに代替技術の採用を行います。
- 6) 地球市民として、リサイクル運動などの社会貢献活動に積極的に参画します。
- 7) 社員の環境意識を高揚するために、教育、啓発、広報活動などを行うとともに、地域の環境改善活動への自主的参加を支援します。

(2005年7月19日改正)

## 2. 環境目的、環境目標および活動結果

2007年度の活動の結果による環境目標の活動状況・評価は下記の通りです。

環境目的	環境目標			活動状況・評価	
	目標項目	目標値	活動部門		
環境配慮型製品の開発および拡販	環境配慮型製品の拡販	売上高・販売比率の向上	東洋鋼鈹(株)	予算値達成	○
		樹脂バンドの拡販	鋼鈹工業(株)	対予算値98.7%で未達成	×
		サイクルハウス、サイクルラック、クリーンエースの販売促進	KYテクノロジー(株)	予算値達成	○
	環境配慮型製品の開発	負荷物質削減、省エネルギー検討	東洋鋼鈹(株)	開発2項目達成(公害関連物質の削減および省エネルギー)	○
		情報収集	鋼鈹工業(株)	デザインレビューに組込検討実施中	○
		既存製品の検討	KYテクノロジー(株)	1件について2月より販売開始	○
環境負荷低減	省エネルギーの推進	エネルギー消費量削減 前年比1%削減	東洋鋼鈹(株)	8%削減で達成、用水使用量についても11.7%削減達成	○
			鋼鈹工業(株)	17%削減で達成	○
			KYテクノロジー(株)	20%削減で達成	○
		燃料使用量1%削減	下松運輸(株)	25%削減で達成	○
		社船燃料1%削減	共同海運(株)	8%削減で達成	○
	廃棄物の削減と再資源化の推進	セジマート汚泥の再資源化	東洋鋼鈹(株)	設備改造の設計にまで至らず	×
		リサイクル材使用率・再使用率の向上、COD削減	鋼鈹工業(株)	リサイクル材使用率・再使用率は向上、COD削減は未達成	×
		処理委託先の検討	KYテクノロジー(株)	2社新規に契約	○
		木製パレットの再資源化	下松運輸(株)	燃料チップへ再資源化	○
		廃棄物報告書の作成	共同海運(株)	処理ルートの見直しに留まった	×
	PRTR対象物質削減検討	製品との関連調査・明確化	東洋鋼鈹(株)	通過工程ごとの対象物質の調査までは完了	×
		PRTR対象物質削減検討	鋼鈹工業(株)	1物質について削減を推進した	○
		代替物質検討	KYテクノロジー(株)	代替物質模索中	○
		NOx・PM(粒子状物質)の削減	下松運輸(株)	NOx10%、PM27%の削減	○
	事務用品のグリーン購入	購入比率60%以上	グループ各社	グループ全体で64.2%(各社全てで達成)	○
環境マネジメントシステムの発展	グループEMSの充実	内部監員の力量向上	グループ各社	外部講習受講および内部教育の実施	○
	コミュニケーションの促進	グループ環境報告書の充実	グループ各社	社会性報告内容の充実	○

### 2007年度の活動状況・評価

- 1) 環境配慮型製品の開発および拡販は、着実に成果を上げてきており、今後共に社会のニーズに応えていきたいと考えています。
- 2) 省エネルギーの推進は、全ての会社において大きな向上を示し、目標値を達成しています。引き続き更なる活動を推進していきたいと考えています。
- 3) 廃棄物の削減と再資源化の推進は、計画の遅れおよび一部の未達成はあるものの着実に成果を上げてきております。
- 4) PRTR対象物質削減検討についても、計画の遅れはあるものの着実に成果を上げてきております。製品含有の規制化学物質管理について取り組んでまいります。



2008年度の環境目的および環境目標は下記の通りです。

環境目的	環境目標			手段
	目標項目	目標値	活動部門	
環境配慮型製品の開発および拡販	環境配慮型製品の拡販	売上高・販売比率の向上	東洋鋼鈹(株)	販売部門の拡販計画による
		樹脂バンドの拡販(735t/月)	鋼鈹工業(株)	サンプル提供と新規顧客へのPR
		サイクルハウス、サイクルラック、クリーンエースの販売促進	KYテクノロジー(株)	ホームページ等による製品PR
	環境配慮型製品の開発	開発項目2項目達成	東洋鋼鈹(株)	公害関連物質の削減および省エネルギー
		情報収集および開発促進	鋼鈹工業(株)	デザインレビューで環境配慮型材料使用の検討
		新製品および既存製品の検討	KYテクノロジー(株)	改良、再設計および副資材の見直し
環境負荷低減	省エネルギーの推進	エネルギー消費量削減 前年比1%削減	東洋鋼鈹(株)	電気品設備更新および廃熱回収設備設置
			鋼鈹工業(株)	歩留、原単位の向上
			KYテクノロジー(株)	生産・輸送方法の見直しおよび省エネ設備の検討
		燃料使用量1%削減	下松運輸(株)	エコドライブ教育および購入品検討
	社船燃料1%削減	共同海運(株)	省エネ設備対策の実施	
	廃棄物の削減と再資源化の推進	対前年度より向上	東洋鋼鈹(株)	副資材、包装材等の削減、再利用検討および廃棄物処理ルートの再確認と変更
		対前年度より向上	鋼鈹工業(株)	リサイクル可能物品への代替および再使用率の向上
		対前年度より向上	KYテクノロジー(株)	処理ルートの見直しおよび木くずの再資源化率向上
		再資源化率向上	下松運輸(株)	リサイクル可能物品への代替検討
		廃棄物の再資源化推進	共同海運(株)	木材・廃油の処理の見直し
	化学物質管理	PRTR対象物質削減検討	東洋鋼鈹(株)	対象物質のリストアップ、使用実績把握および代替検討
		PRTR対象物質削減検討	鋼鈹工業(株)	使用実績の把握および代替検討
		代替物質検討	KYテクノロジー(株)	使用実績の把握および代替検討
	事務用品のグリーン購入	購入比率70%以上	グループ各社	意識の高揚、啓発および定着化
	環境マネジメントシステムの発展	グループEMSの充実	環境関連法順守の強化	グループ各社
内部監査の強化			グループ各社	監査方法の改善、外部教育の受講および内部教育の実施
コミュニケーションの促進		グループ環境報告書の充実	グループ各社	社会性報告内容の充実

### 3. 環境マネジメントシステムの状況

#### ● 環境マネジメントシステムの構築

当社の環境保全に関する取り組みは、主力生産拠点である下松工場主導で進めてきており、1999年12月に環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001:1996を下松工場として認証取得しました。

近年、環境問題は、オゾン層破壊、温暖化、酸性雨等、地球規模での取り組みが求められています。このような地球環境問題に積極的に取り組み、

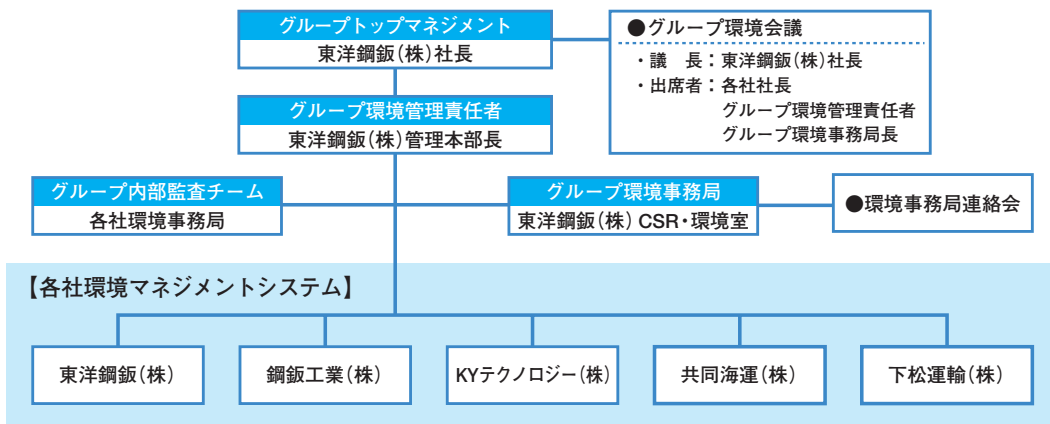
環境負荷の低減や環境汚染の予防等の対策を実施していくにあたって、全社、さらにはグループ企業を含めた一体としての活動が重要と考え、2004年12月にグループ統合ISO14001の認証を取得しました。

また、2005年12月には、ISO14001:2004年版への移行も完了しました。

#### ● 環境マネジメントシステムの推進体制

グループ統合の環境マネジメントシステムでは、グループ環境会議において、グループの環境方針、環境目標を審議・決定し、グループ各社で具体的な環境目標、実施計画を立てて活動しています。

なお、このシステムの実効をあげるため、および継続的改善を図るために、グループ各社の環境事務局を対象としたグループ内部監査を実施し、グループ各社の運用状況および成果を監査・確認しています。



※東洋鋼鋳(株)環境マネジメントシステムには、鋼鋳商事(株)、東洋パックス(株)および東洋パートナー(株)を含みます。

#### ● 環境マネジメントシステムの範囲拡大

海外のグループ企業についても環境マネジメントシステムの範囲拡大を進めております。当社のマレーシアにある海外連結子会社TMT (Toyo-Memory Technology Sdn. Bhd.)では、2006年より環境マネジメントシステムの構築を進めてきましたが、2007年12月14日にIQ NetとSIRIM QAS International Sdn. Bhd.よりISO 14001認証取得が承認されました。

近年マレーシアでは環境に対する要求が高まっており、TMTでも環境負荷低減に対して具体的な3つの目標(i電気使用量5%削減、ii水使用量5%削減、iiiスラッジ排出10%削減)を掲げ、積極的に活動を行ってまいりました。これらの活動が認められ、認証を取得いたしました。

#### 【TMT会社概要】

会社名: Toyo-Memory Technology Sdn.Bhd.  
 創立: 1997年3月  
 資本金: 75百万リンギット  
 従業員数: 303名(2008年3月)  
 所在地: クリムハイテクパーク  
 事業内容: 磁気ディスク用アルミ基板製造







# 環境負荷低減への取り組み

当社並びにグループ企業の生産拠点である下松は、瀬戸内海国立公園の青い海と緑豊かな山に囲まれた美しい自然の中に位置しています。この恵まれた環境との共生を図るために積極的に環境負荷低減活動を展開しています。

## 1. 物質フロー

グループでは、ぶりきやラミネート鋼板をはじめとした各種表面処理鋼板、高品質の薄鋼板などの鋼板製品および鋼板の加工品（鋼板関連事業）、硬質合金、電子機器部品、クラッド材、機械器具等（機能材料関連事業）、並びに光学用および容器用機能フィルム（化成品事業）を製造しています。

2007年度の環境面から見たグループの物質フロー

は下図の通りで、主要な原材料として熱延コイルを使用し、製造工程におけるエネルギー源として電気、重油、都市ガスを使用し、さらに表面処理時の洗浄や設備の冷却などに水を使用しています。その過程で、CO<sub>2</sub>、COD、埋立廃棄物等が環境負荷物質として排出されています。



## 2. 省エネルギー・省資源

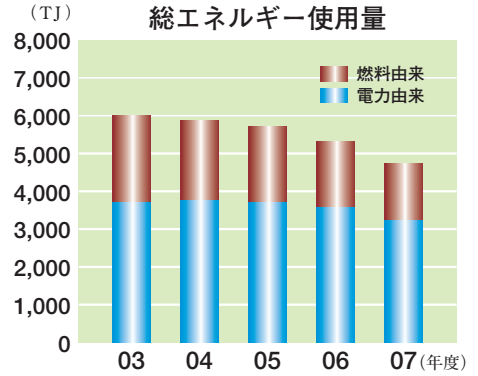
### ● 総エネルギー使用量

2007年度の事業活動におけるグループの総エネルギー使用量（ジュール換算値、製品物流は除く）は、4,773TJで前年度比11.1%減少しました。

使用エネルギーとしては、電力使用によるものが68.5%を占めています。

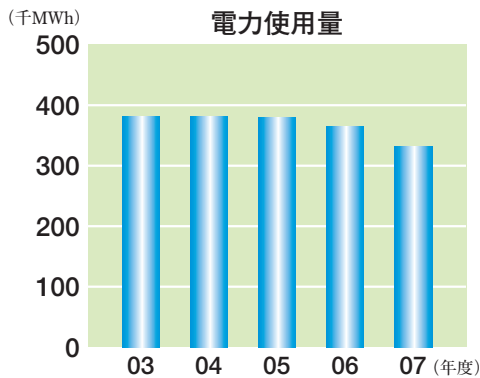
燃料使用では重油が49.1%、都市ガスが50.5%と都市ガスの比率が増加しています。これは、1月からの都市ガスボイラー稼働の影響です。

総エネルギー使用量減少の要因は、設備改善による効果と品種構成の変化によるものです。



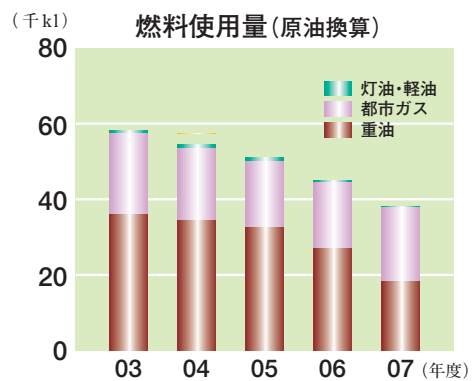
### ■ 電力使用量

グループの総電力使用量は332千MWhで、前年度比8.9%削減しました。



### ■ 燃料使用量

グループの総燃料使用量（原油換算値、製品物流は除く）は38千klで、前年度比15.2%削減しました。

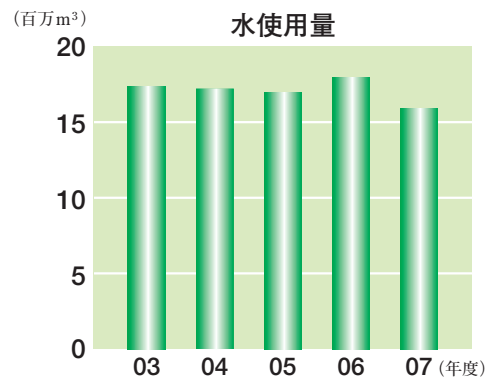


エネルギーの使用量は生産量が前年度と比較し横ばいであったにもかかわらず、設備改善や生産性向上により大幅な削減を達成しています。

### ● 水使用量

グループの総水使用量は16百万m<sup>3</sup>で、前年度比11.7%削減しました。

表面処理銅板や磁気ディスク用基板の製造に多くの用水を使用していますが、現場でのきめ細かなバルブの閉止と流量の管理により達成されたものです。また、冷却塔、ろ過処理設備等の活用により循環使用も進めています。

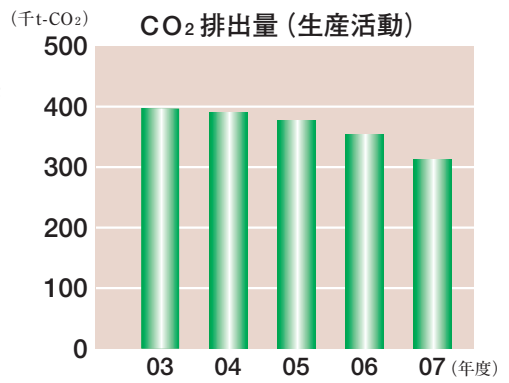


### 3. 二酸化炭素の排出抑制

#### ● 生産活動における二酸化炭素排出量

事業活動にかかわるグループの総CO<sub>2</sub>排出量は312千t-CO<sub>2</sub>で、前年度比12.0%の削減となりました。

生産性の向上対策と共に省エネ設備の導入や高効率化および環境負荷の少ない燃料への転換を進め、CO<sub>2</sub>の排出削減に取り組んでいます。

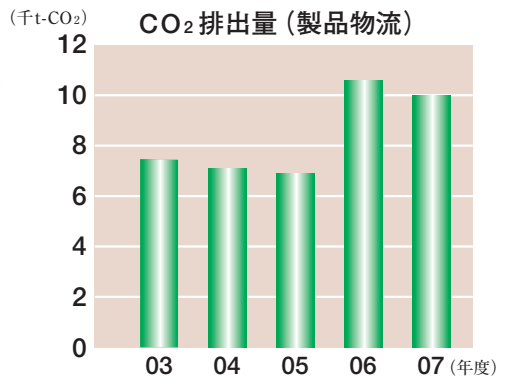


#### ● 製品物流における二酸化炭素排出量

製品物流にかかわるグループの総CO<sub>2</sub>排出量は10千t-CO<sub>2</sub>で、前年度比5.7%の削減となりました。

2006年度の省エネ法改正によって備車、備船のデータも入手できるようになり透明性が増しました。

今後とも、効率的な製品物流を図り、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めてまいります。

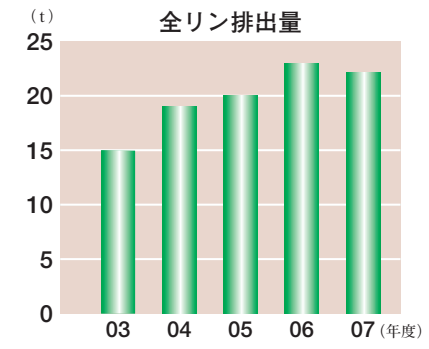
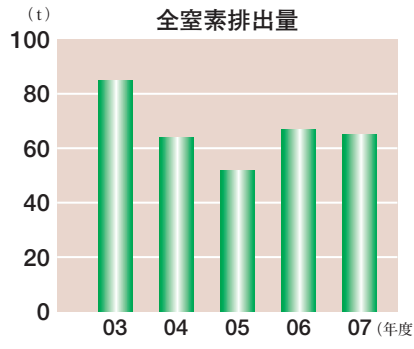
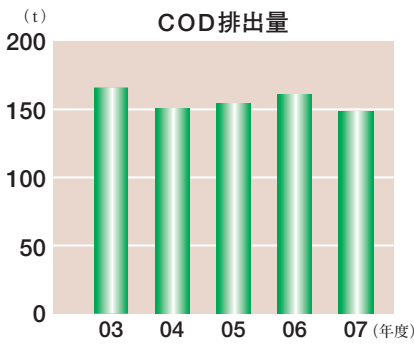


### 4. 水域への排出抑制

#### ● COD、全窒素および全リン排出量

2007年度のCOD、全窒素および全リンの排出量は水質汚濁防止法に規定されている第6次総量規制努力目標値の順守のため、運転管理の強化に努め、すべての項目について目標値をクリアするとともに、前年度と比較しCOD7.7%、全窒素3.0%、全

リン3.9%の削減を達成いたしました。グループの事業活動で発生する、酸洗排水、含油排水、めっき排水等は、その種類に応じて適切に中間処理され、総合排水処理設備に送られ、最終的に一括して凝集沈殿処理をされます。

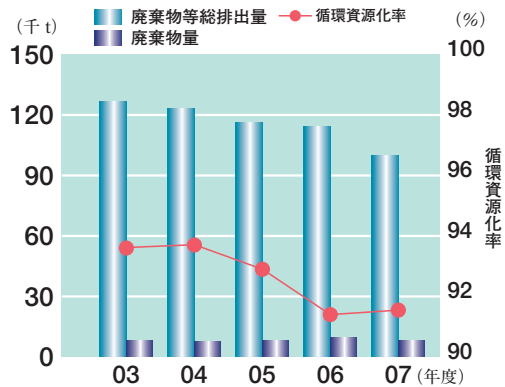


## 5. 廃棄物の排出抑制

### ● 廃棄物量

グループの総廃棄物等排出量は100千tでした。そのうち廃棄物量は8.4千tで前年度比15.5%減少しました。前年度発生した一過性の建設残土の影響で、実質的には例年並の発生量でした。

循環資源化率については、製造時の工程歩留の向上により、金属屑を中心とした有価売却物が減少したために若干の向上にとどまりました。



### ● ゼロエミッション活動

事業活動の中で発生する鉄屑、廃硝酸等を再資源として売却し、事業系一般廃棄物および廃油等は再資源化および熱回収を推進し、ゼロエミッション活動に積極的に取り組んでいます。

2006年4月に当社下松工場では、製膜設備等から排出される廃樹脂を再利用するために、樹脂リサイクル設備を稼働しました。これまで社外へ廃棄処分していた樹脂を社内でペレット化して製膜設備で再利用することが可能となり、樹脂リサイクル率の大幅な向上が図れました。

### ● 廃棄物再資源化状況

対象物	再資源化処理方法
鉄屑	鉄原料(売却)
錫めっき廃液	中和設備で錫を回収 → 錫原料(売却)
廃硫酸	硫酸処理施設で硫酸鉄を回収 → 顔料、磁気テープ原料(売却)
廃硝酸	廃硝酸回収設備で回収 → 売却
廃油	ボイラー燃料等(社内および社外)
廃樹脂	・ 樹脂リサイクル設備による自己循環利用 ・ 樹脂原料(売却)

## 6. 環境リスクマネジメント

### ● 緊急事態への対応

多量のエネルギー、薬品等を使用する工場で事故が発生した場合、地域社会にも大きな影響をもたらすことを認識し、グループでは事故発生の防止のために、厳しい自主基準による管理を実施し環境リスクの低減を図っています。また、万一の事故の発生に備え、緊急事態への対応手順を定め定期的な訓練を実施しています。

### ● 排水異常による外部流出の未然防止

下松工場の排水は、法の適用をうけており、これを順守するために規制値よりも厳しい基準を定め、排水水質をオンラインの連続測定器で監視し、更に定時分析による確認を行っています。連続測定器については、上流の排水処理設備にも設置しており、異常水質を早期に検知できるようにしています。

万一、排水基準を超える恐れのある事態が発生した場合には、全排水を緊急貯留槽に回収し、再処理後、排水する等の体制をとっています。



▲緊急貯留槽

## 7. 環境関連法規制への対応

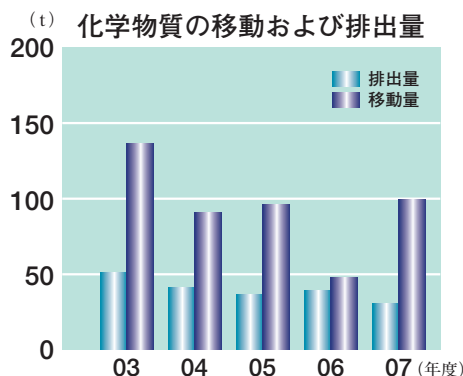
### ● 環境関連法規制順守状況

2007年度は、排水pH値の水質汚濁防止法基準超過および全窒素の社内基準超過の2件の環境関連異常が発生しました。それぞれの異常に対し、

設備対策を実施すると共に、運転手順の見直しおよび教育による、再発防止対策を講じています。

### ● 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

グループの排出量と移動量の合計は前年度比49.0%の増加となりました。増加の原因としては対象物質の追加によるものが主なものとなっています。



### ● グリーン購入法

グリーン購入法適合商品等の表示のある物品を積極的に購入するよう努めています。2007年度のグループ全体の事務用品のグリーン購入率は64.2%で前年度から約8%向上しました。

### ● 東洋鋼鋳グループのグリーン購入実績

		グリーン購入率* (%)	
		2006年度	2007年度
東洋鋼鋳	本社	82.0	84.3
	下松工場	56.7	60.2
鋼鋳工業		45.4	62.6
KYテクノロジー		48.8	66.1
共同海運		65.9	71.6
下松運輸		56.1	61.1
グループ全体		56.4	64.2

\*事務用品の全購入金額に対するグリーン商品購入金額の割合

## 8. 省エネ設備の紹介

2007年度は新たに都市ガスを燃料とする、No.2号ボイラーを新設しました。

このボイラーを優先的に稼働させることで、設備効率向上が図れ、2008年度は重油換算で約100klの省エネ効果が見込まれます。



▲ No.2号ボイラー



## 9. 環境に配慮した製品開発

東洋鋼鉄グループでは、単に素材を供給するメーカーとしてではなく、人の暮らしと豊かなコミュニケーションを何よりも大切に、新しい材料の開発を通して環境と調和した持続的に発展する循環型社会の形成を目指します。

### ● 環境配慮型製品「ハイペット」

当社では環境に配慮した鋼板「ハイペット」を主力製品として提供しております。

ハイペットはリサイクルに有効な鋼材やアルミを、ポリエステルフィルムでラミネートした鋼板であり、環境への負荷を大幅に削減したエコ缶「TULC」の材料としてコーヒー、ビールなどの飲料缶に使用されています。ツナ缶など食缶用のラミネートDR缶、業務用の18リットル缶などの材料としても広く皆様に愛用されています。

ハイペットは缶の製造時に必要な塗装工程、洗浄工程を省略できるエコロジカルな材料であり、地球に優しい鋼板としてさまざまな用途に展開しております。なお当社では、ハイペット用フィルムも自社開発しています。



▲TULC缶

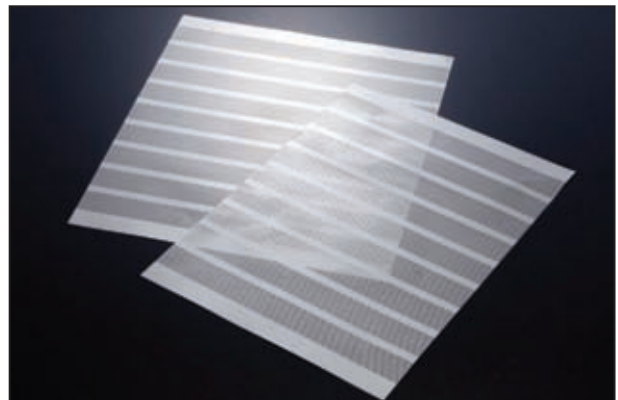


◀当社ホームページより

### ● ニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」

走行時の環境負荷の低い自動車として電気自動車、水素自動車、燃料電池車がありますが、現在、実際に量産型として走っているのは、ガソリンエンジンと電気モーターの2つの動力源をもつハイブリッド自動車(HEV)で、エコカーの代名詞ともなっています。

このHEVにはニッケル水素電池が使用されており、その電極材として当社のニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」が使用されています。この電極用の鋼板は、当社独自の表面処理技術とミクロン単位の極薄圧延技術、そして、ロータリープレス方式という新しいプレス技術を複合させた製品で、HEVを支える重要な部品のひとつとなっています。



▲ハイブリッド車(HEV)のニッケル水素電池に使用される電極材、下角孔芯体材

## ● 銀鏡めっき鋼板「ミラーコートK」

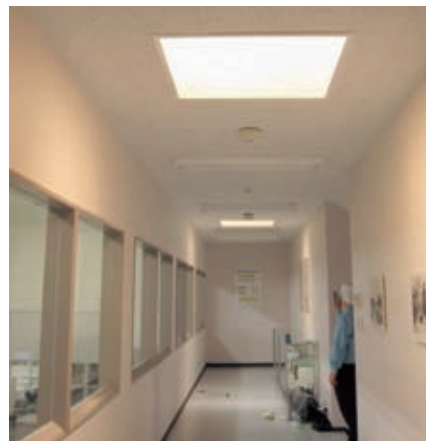
当社が得意とするめっき技術を活かし、世界で初めて鋼板上への銀めっきに成功した高効率反射材「ミラーコートK」。ミラーコートKが持つ95%以上という高い反射率(ちなみにガラスの鏡の反射率は約85%)を活かしたのが、光ダクト『どこでも光窓』です。

家の中でどうしても北側に追いやられてしまい、日中でも暗いイメージのある洗面所やトイレ。『どこでも光窓』がさわやかな太陽光をふりそそぎます。また、日中でも照明を付けっ放しのオフィスでは『どこでも光窓』が省エネに貢献します。

昨年末より営業開始し、現在までに戸建て住宅をはじめ、工場・研究所(東洋製罐グループ、トヨタグループ等)に採用され好評を得ています。今後

益々多くのご家庭、企業に環境に優しい照明器具として定着させていきたいと考えています。

なお、「ミラーコートK」の次の用途として照明用の反射板を検討中ですが、環境と調和する金属素材として、今後もっと多くの可能性を追求してまいります。



▲東罐興業(株)大阪工場の見学通路に採用、ミラーコートKを使用した『どこでも光窓』



## 環境配慮型商品のショールーム『エコライフプラザ』オープン

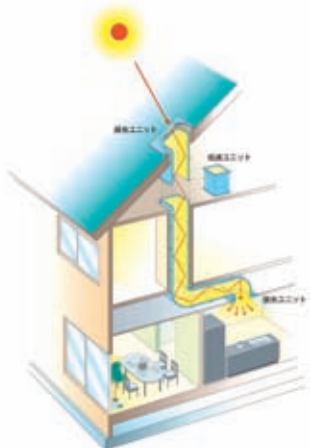


2008年8月、環境に配慮した建材を展示する『エコライフプラザ』を本社ビル横の別棟にオープンしました。

当社が世界で初めて金属板への銀鏡めっき処理技術に成功し、2007年11月より製造販売を開始した「ミラーコートK」(上記参照)。可視光線の反射率95%以上という高い反射率を誇り、窓の設置が難しい場所にも自然光を容易に採り入れることができます。地球温暖化対策(CO<sub>2</sub>削減)や省エネルギーに貢献する建材として脚光をあびている注目の商品です。

エコライフプラザには、このミラーコートKを使用した光ダクトシステム『どこでも光窓』の施工例が展示されており、その明るさを実際に体感することができます。

他にも、1階にはリサイクルが可能なファイバーコートを使用した空調ダクトや屋根材、さらに2階には環境に優しく、耐久性とデザイン性に優れた樹脂化粧鋼板を使用したキッチンパネルや冷蔵庫を展示しています。



▲縦引き光ダクトシステムのしくみ  
(高い反射率で窓のない部屋での採光も可能に)



▲ミラーコートKを使用した光ダクトの施工例(左)  
(照明なしでもこんなに明るく)



▲ファイバーコートを使用した空調ダクトと屋根材



▲ミラーコートKを使用した光ダクト  
(照明なしでも明るいキッチン)

## 10. 環境会計

環境会計とは、「事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し分析し、公表するための仕組み」です。2006年度実績から、グループとしての集計を実施しました。

集計範囲：東洋鋼鉄グループ  
対象期間：2007年4月1日～  
2008年3月31日

### ●環境保全コスト

環境保全コスト総額(設備投資額+費用額)は前年度比5.0億円増加しました。設備投資額が5.7億円増加し、全設備投資額に占める割合も11.7%増加しました。環境負荷の低い製品の開発費については、3.4億円に増加し、全研究開発費に占める割

合も12.1%増加しました。

環境負荷については、エネルギー使用量および水使用量、CO<sub>2</sub>排出量および廃棄物等総排出量、廃棄物量の全項目で対前年度比削減となりました。

#### 〈環境保全コスト〉

(百万円/年度)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額		費用額	
		2007	2006	2007	2006
事業エリア内コスト		1,157	703	889	920
公害防止コスト	大気汚染、水質汚濁防止活動、設備保守点検	24	19	355	375
地球環境保全コスト	省エネルギー活動	1,109	679	91	0
資源循環コスト	廃棄物回収、再資源化	23	4	534	544
上下流コスト	包装材の回収リサイクル	0	0	357	425
管理活動コスト	ISO14001維持向上活動、環境負荷監視	0	0	100	113
研究開発コスト	環境負荷の低い製品開発	122	8	219	175
		2007	2006		
	設備投資額+費用額	341	183		
	全研究開発費	1,493	1,717		
	対全研究開発費比	22.8%	10.7%		
社会活動コスト	環境美化活動	0	0	0	71
環境損傷コスト		0	0	0	0
合計		1,278	711	1,565	1,633
	全設備投資額	6,260	8,206		
	対全設備投資額比	20.4%	8.7%		
環境保全コスト合計(設備投資+費用額)		2007		2006	
		2,843		2,344	

#### 〈環境保全効果〉

項目	効果の内容	単位	環境負荷指標		
			総量		対前年度比 削減量
			2007	2006	
事業エリア内で生じる 環境保全効果	エネルギー使用量	TJ	4,733	5,442	709 (13.0)
	内訳 電力由来		3,243	3,585	342 (9.5)
	電力以外		1,489	1,857	368 (19.8)
	水使用量	千m <sup>3</sup>	15,876	17,977	2,101 (11.7)
	CO <sub>2</sub> 排出量	千t-CO <sub>2</sub>	322	365	43 (11.8)
	内訳 電力由来		221	243	22 (9.1)
	電力以外		101	121	20 (16.5)
	廃棄物等総排出量	ton	99,790	113,960	14,170 (12.4)
	廃棄物量(埋立・単純焼却)		8,422	9,882	1,460 (14.8)

※CO<sub>2</sub>排出量には製品輸送燃料起因を含む。



## 11. 環境トピックス

### ● ノーマイカーデーの推進

当社下松工場では、地球温暖化を防止するため、2008年度から6月と12月を「ノーマイカー強化月間」としてノーマイカーデー推進に取り組むこととしました。

毎週金曜日をノーマイカーデーに設定し、従業員および協力会に対し会議等を利用し参加を呼びかけました。その結果6月につきましては、160人が参加し650kgのCO<sub>2</sub>が削減されました。

### ● 「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」

環境省では、2003年より地球温暖化防止のため、ライトアップ施設や家庭の電気を消すよう呼びかける「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」を実施しています。

当社ではこのキャンペーンの趣旨に賛同し、従業員に参加を呼びかけるとともに、2008年6月21日と7月7日の20時～22時の2時間、下松工場の社名看板を消灯して協力しました。



▲キャンペーンポスター

### ● 環境教育

グループでは、ISO14001環境管理活動の中で従業員や内部監査員に対する講習や環境セミナーの受講等の環境教育を積極的に実施しています。2007年度は、外部講師による環境内部監査員を対象にした「ブラッシュアップ講座」を開催し43名が受講しました。2008年度については、現業職場の次席以上を対象にした「排水処理教育」や環境内部監査員を対象にした「法令解説講習」についても推進しています。



▲ブラッシュアップ講座

### ● 交替係長制度

当社下松工場では、休日、夜間時の安全・防災・環境に関する緊急事態には、従来、当直者で対応していましたが、2008年度からは交替係長制度を設け、より迅速で確実な対応がとれるように組織の変更を行っています。

交替係長は、4直3交替の24時間体制で安全・防災・環境に関する巡視、指導を行うとともに、緊急事態が発生した場合には、関係先への連絡、設備停止等の応急処置を行います。

### ● 高効率ボイラーの導入

当社下松工場では、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>削減のため、高効率の液化天然ガスボイラー設備の建設を進めていましたが、2007年12月に完成し2008年1月より運転しています。

このボイラーは、環境省から自主参加型排出権取引に参加することを条件とした補助金を受領して建設しており、2008年度に10,159tの削減を約束しています。2007年1月から3月までの実績では、3,720tの削減をしており、目標どおりの削減ができる見込みとなっています。



▲No.2号ボイラー

### ● セクハラ、パワハラ説明会

近年企業における法令違反が多く取り沙汰されています。企業が存続し続けるためには、社会からの信頼を得ることが必要不可欠であり、社会的責任を自覚し、コンプライアンスの順守(正しい行動をとる)が強く求められています。本社、支店および下松工場では、コンプライアンス強化活動の一環として、関係会社を含めた全従業員を対象に「セクハラ・パワハラ説明会」を開催いたしました。



# 社会との共生

東洋鋼鈹グループでは、社会貢献活動、地域社会とのコミュニケーション等様々な活動を通じて、グループに関わるステークホルダーの皆様から信頼される企業づくりを推進しています。

## [企業の社会的責任(CSR)の遂行]

2007年5月に発表した「東洋鋼鈹グループ中期経営計画」において、CSRの遂行を基本方針の一つに位置付け、法令順守、内部統制、環境経営の体制整備および強化を図り、社会に信頼される会社を目指すことを明確にしました。

## 1. コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスを重要な経営課題と認識し、企業統治と企業リスク管理が有効に機能するように、経営の透明性と公正性の一層の向上に努めています。

また、「人と環境にやさしい製品を安全に作ります」を経営の基本方針に掲げ、環境活動や法令および企業倫理の順守にも積極的に取り組んでいます。

### ● マネジメント体制

経営の意思決定および監督機能と業務執行機能を明確にし、経営環境の変化に対して迅速な対応を行うために執行役員制度を採用しています。取締役会は、現在8名の取締役で構成され、うち社外取締役は1名となっています。

執行役員制度の導入にあわせて、業務の責任と権限を明確にし、かつ迅速、的確な業務執行を目的とした本部制を採用しています。6本部の本部長には、執行役員がその任に就き、取締役会が決定した方針に基づいて業務執行にあたっています。

また、経営の機動性のさらなる向上を図るため、取締役および執行役員の任期は1年としています。

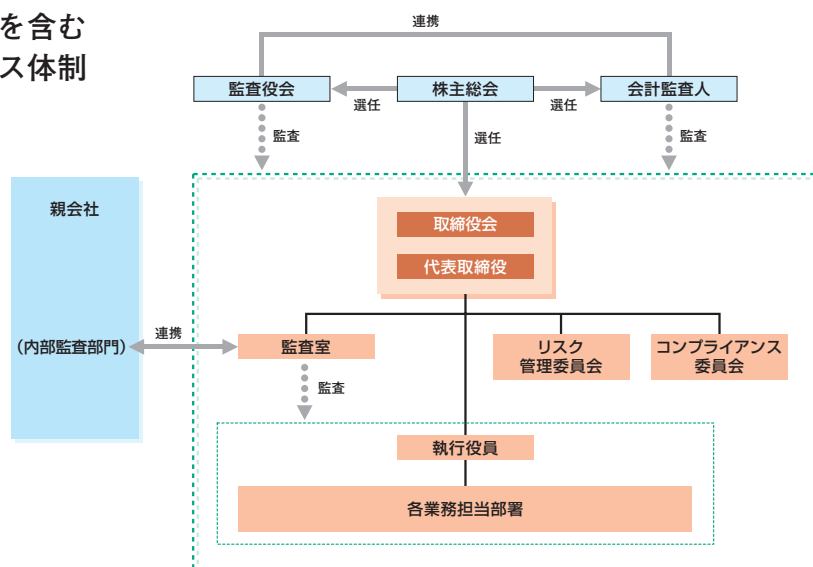
### ● 監査体制

独立した会社の機関である監査役4名（うち社外監査役2名）で構成される監査役会を設置し、各監査役は取締役会等の重要会議に出席するほか、取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、その重要性を認識しており、内部監査部門が年度計画に基づき実施し、その監査結果は取締役会で報告されています。

また、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を取締役会で定め、本方針に基づき内部監査部門が中心となり同体制の整備にあたっています。

### ● 内部統制システムの概要を含むコーポレート・ガバナンス体制





## 2. コンプライアンス

企業には活動全般にわたって「社会的公正さ」や「法令順守」が求められおり、そのためにコンプライアンスの徹底が不可欠と認識しています。東洋鋼鋳グループでは、社員が常に「正しい行動」とることにより、広く社会から信頼されることを目指して企業活動を遂行してまいります。

### ● 企業行動規準

2005年3月、役員および社員一人ひとりが高い倫理観に基づき適切な判断基準を持って正しく行動するための手引きとして「企業行動規準」を制定しました。(2006年8月東洋鋼鋳グループ企業行動規準に改訂)

企業行動規準は、当社グループにおいて最も順守すべき事項として右記の項目で構成しています。

また、2005年11月から東洋鋼鋳グループの社員にコンプライアンスカードを配付しています。「常に正しい行動のためのセルフチェック」「コンプライアンス相談窓口」について記載しており、常に携帯し、自身が行動するときの判断指針としています。



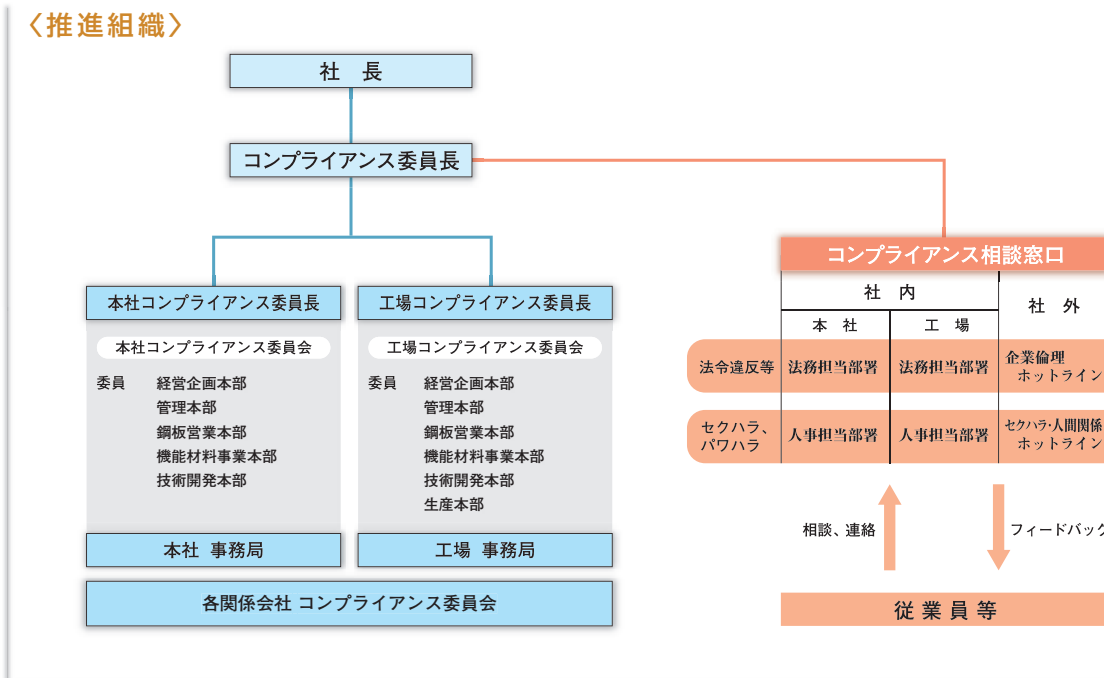
- (1) 素材を供給する専門メーカーとしての取り組み
- (2) 人権と個性の尊重
- (3) 環境保全への積極的な取り組み
- (4) 取引先・行政との健全な関係
- (5) 情報の適正な管理と開示
- (6) 反社会的勢力に対する姿勢
- (7) 公私のけじめ
- (8) 海外業務における心構え

### ● コンプライアンス運営の仕組み

#### ・ コンプライアンス委員会

リスク管理委員会のコンプライアンス上のリスク管理の一環として、本社および下松工場にコンプライアンス委員会を設置しています。コンプラ

イアンス委員長は、グループと会社全体のコンプライアンスの統括と推進を行います。



## ・コンプライアンス相談窓口

企業行動規準をはじめコンプライアンスに関して疑問や質問があったとき、また法的、倫理的に不適切な問題の発生に気付いたときに相談、連絡するために社内の相談窓口と社外の相談窓口を設け、組織の自浄作用による解決を目指し

ています。この制度の利用者が不利益を受けないことや個人情報等の保護については、社内規程に明記しており、社員が安心して利用できるようになっています。

### 【社内相談窓口】

社内で発生した問題を迅速かつ的確に対処するために、グループにおいては各社それぞれで設置しています。当社は右記の部署が対応しています。

#### 「企業倫理・法令違反等」相談

本社・下松工場  
各法務担当グループ

#### 「セクハラ・パワハラ」相談

本社・下松工場  
各人事担当グループ

### 【社外相談窓口】

社内の人には相談しづらい、社内窓口相談したがなかなか対応してもらえない場合等に備え、専門の会社に委託した「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」の社外相談窓口を設置し、グループ各社が共同で利用しています。

2008年4月からは、匿名での受付や職場の人間関係の悩みの相談も開始し、相談機能の拡大を図りました。これに伴い、コンプライアンスカードも相談窓口の内容を変更しました。

## ● 2007年度の主な活動実績

### ・コンプライアンス推進月間

2007年から毎年10月を「コンプライアンス推進月間」として、従業員一人ひとりが自らの行動や日常業務のやり方を見直したり、周知・啓発活動を通してコンプライアンスのより一層の強化に取り組むことになりました。

トップメッセージの発信、相談窓口利用方法の周知、コンプライアンス推進月間や社外相談窓口のPRポスターの掲示、アンケート調査、社内研修などの活動を行いました。

### ・コンプライアンス研修

#### 独占禁止法研修会

2007年10月に森・濱田松本法律事務所の伊藤憲二弁護士を招いて「近時の独占禁止法の動向と留意事項」と題し、独占禁止法の規制の概要、カルテル・談合に関する規制等についてケーススタディを交えて講演をしていただきました。



#### インサイダー取引規制研修会

2007年11月に東京証券取引所売買審査部のチーフ・コンプライアンス・アドバイザーの方を招いて「インサイダー取引規制セミナー」を開催しました。



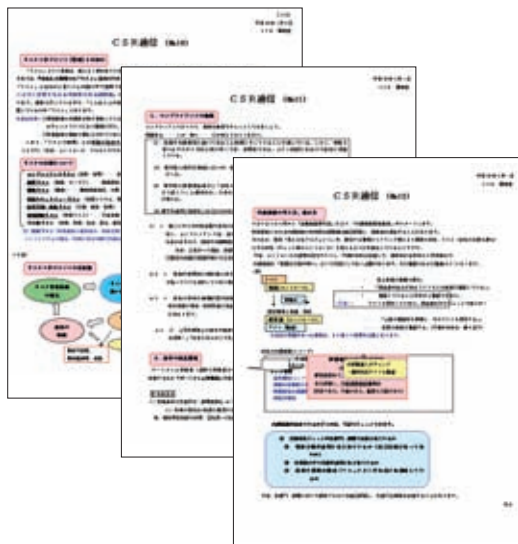
● **コンプライアンス・アンケート**

当社で働く社員・派遣・パート・嘱託に対し、コンプライアンスの定着状況や気がかり事項等の調査を実施しました。回収率は約70%で、多

くの貴重な意見や要望も寄せられ、今後の施策・立案に活用しております。

● **コンプライアンス情報の発信**

定期的な社内教育だけでなく、日頃からコンプライアンス意識の向上を図るため、身近な話題を分かりやすく解説する「CSR通信」を毎月発行しています。



● **個人情報の保護**

「個人情報の保護に関する法律」の全面施行を受け、当社では個人情報保護に関する全社的な取り組みを実現するため、2005年6月に『東洋鋼鋳個人情報保護方針』を制定しました。

当社は、事業活動を通じて取得した個人情報の取り扱いについて、法令等の順守を社会的責務と認識し、方針に基づいて個人情報の保護に努めてまいります。

なお、当社個人情報保護方針の内容は、ホームページ (<http://www.toyokohan.co.jp>) に公開しています。



▲当社ホームページに掲載・公開されている個人情報保護方針

### 3. 社会貢献活動

#### ● 市内一斉ゴミゼロ運動

下松市環境衛生推進協議会主催の「第5回市内一斉ゴミゼロ運動」が2007年5月27日に開催されました。今回はグループ各社から約250名が参加し、下松市豊井連合自治会の皆様と合同で豊井地区の清掃活動に取り組みました。



#### ● 徳山・下松・光・新南陽港クリーン作戦参加

瀬戸内海沿岸にある周南地域の港をいつまでも美しく保つため、2008年7月16日に海の月間行事の一環として港クリーン作戦が実施されました。グループ各社からも物流部門等の従業員が参加し、岸壁周辺を約1時間にわたって清掃しました。



#### ● スチール缶リサイクル協会活動への参画

当社は、スチール缶リサイクル協会の一員として、各種行事および企画を通してスチール缶のリサイクル促進を推進しています。2007年度はスチール缶リサイクル協会共催のもと長野県松本市と三重県伊勢市で開催された美化キャンペーンに参加し、地元ボランティアの方々と一緒に清掃活動やリサイクル啓発活動を行いました。



#### ● 公道清掃実施

環境月間行事の一環として、毎年当社下松工場周辺の公道清掃を実施しています。2007年度は環境の日の6月5日にグループ各社の従業員で工場周辺の清掃を実施しました。



#### ■ 厚生労働大臣表彰受賞

当社下松工場が「愛の血液助け合い運動」に協力した団体に贈られる厚生労働大臣表彰を受けました。

献血運動の推進に永年寄与し、その功績が特に顕著で他の模範となる団体に対し、厚生労働大臣が表彰するものです。2007年度は山口県から2団体が対象となり、10月22日に山口県庁で授賞式が行われました。



## 4. 社会とのコミュニケーション

### ● 環境報告書の発行

当社の環境活動状況を幅広いステークホルダーの皆様にご理解いただくため、2002年から環境報告書を発行しています。この間、報告対象範囲を下松工場から全社、そしてグループへと拡大してまいりました。

この報告書に対する皆様からのご意見を頂戴し、さらなる充実をはかっていくとともに、環境に関する情報開示を積極的に推進してまいります。



### ● ホームページでの環境情報公開

当社ホームページに、CSR・環境活動情報サイト「環境活動」を開設し、環境報告書の内容を公開し、より多くの皆様方に容易に環境情報をご覧いただけるようになっています。



### ● 第3回地域ふれあいデー

当社下松工場の一般開放イベントとして、2007年11月に「第3回東洋鋼鋳地域ふれあいデー」を開催致しました。当日は、約6,000名もの方々が来場くださり、従業員の家族や地域の皆様方との交流を一層深めることができました。



工場見学会や学生クイズ選手権大会をはじめ、マラソン大会、キャンバックキ



ャンペーン、科学体験コーナー、屋台、バザー、遊具、ステージイベント等の催し物を楽しんでいただきました。特に、今年はステージイベントとして、従業員参加型のかくし芸大会が開催され、会場は大いに盛り上がりました。また、昨年引き続き開催されたキャンバック・キャンペーンでは、地域の皆様方に空き缶を持参していただき、1日で約10,000缶を集めることができました。

なお、屋台、バザーの売上金は全額社会福祉協議会へ寄付いたしました。

今後も地域の皆様との相互理解を深めるための交流の場として、充実したイベントを目指してまいります。

### ● 第3回東洋鋼鋳文化講演会

当社では毎年著名人による講演の場を設けています。

2007年度はヴァイオリニスト吉田恭子さんとピアニスト白石光隆さんをお迎えし、「吉田恭子ヴァイオリンコンサート」を、下松市にあるスターピアくだまつ大ホールにて開催しました。当日は地域の皆様、従業員など約900名が会場に訪れ、お二人の息の合った演奏や曲の合間のトークを楽しみました。



▲吉田恭子ヴァイオリンコンサート





### ● 工場見学の受入

当社下松工場では、地域の小中学校からの工場見学も積極的に受け入れており、開かれた工場を目指しています。

また2005年度より周南地域の商工会議所の呼びかけによる「周南地域産業観光ツアー」の見学コースになり、2007年度も約80名ものツアー参加者が来場し、工場内を興味深く見学されました。



### ● 出前講座

下松市内の末武中学校1学年を対象にした「環境学習講話会」に、東洋鋼鋳下松工場の社員を講師として派遣しました。同中学校では、1学年の総合学習の一環として環境をテーマに学習を進めており、下松工場で取組んでいる、排水処理方法や省エネルギー、CO<sub>2</sub>削減等の具体的な内容を説明しました。



## 5. 従業員とともに

### ● 採用に関する基本方針

当社は、企業を支え継続的に成長させる源は人であるとの認識から、採用活動には特に力を入れています。製造現場から技術・事務スタッフまで安定した採用をし、研究開発力や製造技術力の向上およびノウハウの伝承に努めております。また、中途採用にも力を入れており、外部の文化を取り入れた多様性のある会社を目指しています。

### ● 次世代育成支援

当社は、男女とも従業員が十分に能力を発揮できる職場環境を整え、「仕事と家庭の両立」「男性育児参加の促進」を応援し、地域社会の発展に貢献して参ります。具体的には、2005年4月から妊娠中および幼児を養育する従業員を支援する柔軟な勤務時間制度（始業・終業時間の1時間繰り上げ又は繰り下げ措置）を設け、出産祝金を子1人につき20万円に増額いたしました。

2006年4月に、下松市美里町の鋼鋳幼稚園に企業内託児所「星の子保育園」を併設すると共に、下松地区勤務以外の従業員に対して、託児所利用補助制度（子1人につき月額2万円まで補助）を設け、環境設備の充実に取り組んでおります。

### ■ 再雇用制度

意欲と能力のある方にできるだけ長く働き続けていただくために、当社では定年退職後の再雇用制度を設けています。2008年度の定年退職者には4年間（64歳まで）、2009年度以降の定年退職者には5年間（65歳まで）の雇用期間を予定しています。

### 「星の子保育園」施設概要

運営開始	2006年4月3日
所在地	山口県下松市美里町1丁目9番1号 「鋼鋳幼稚園」に併設
対象者	東洋鋼鋳グループに勤務する 従業員の子供
運営内容	「月極め保育」「リレー保育」「一時保育」
広さ	約123.6m <sup>2</sup>
定員	15名



## ●安全衛生、防災への取り組み

下松工場は、下記の安全衛生方針に基づき安全で安心な工場づくりに取り組んでいます。

### 1. 下松工場の安全衛生方針

「安全衛生、防災、環境は全てに優先し、オールⓂの自主管理のもとに推進する」を基本方針に、全員参加で、安全かつ健康で快適な職場の構築に努めています。

- 1) 安全衛生・防災・環境活動をCSRの最優先事項とし、強力に推進します。
- 2) リスクアセスメント活動を主体とした安全活動を推進して労働災害の防止を図ります。
- 3) CSR・安全・防災・環境をパーフェクトに推進するため、安全教育を充実、実施します。
- 4) 安全に対する意識向上と行動面の強化を図るため、3Sと挨拶の励行を徹底します。

### 2. 安全衛生委員会の議事内容と従業員への周知

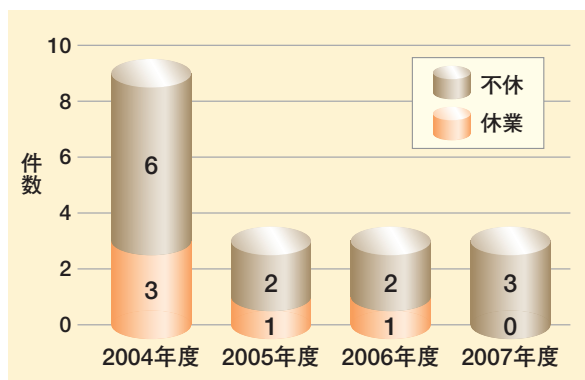
安全衛生委員会は1回／月の頻度で開催しており、安全衛生委員長以下、各職場の代表42名の委員で構成されています。会議は委員長の挨拶、安全・防災GLおよびCSR・環境GLによる資料説明、産業医のコメントの後、職場から提案、意見交換や質疑応答が行われ、工場一丸となって安全衛生・防災・環境活動を推進しています。

項目	内容
1) 事故・災害関係	無災害記録、労働災害統計、私傷病統計、交通事故発生状況
2) 法定・定期測定結果	作業環境測定結果、放射線施設点検結果、ばい煙、排水関係等
3) ヒヤリ・ハット事例紹介	各職場から出されたヒヤリ・ハットの分析と事例紹介
4) 依頼事項・情報	安全衛生・防災・環境に関する依頼、情報の周知徹底
5) 審議・検討事項	工場長指示事項の具体化の討議および進捗状況報告
6) 産業医のコメント	メンタルヘルスや新型インフルエンザ等の健康管理全般に関する情報
7) 当面の活動計画	安全衛生関係、防災関係、環境関係の活動予定

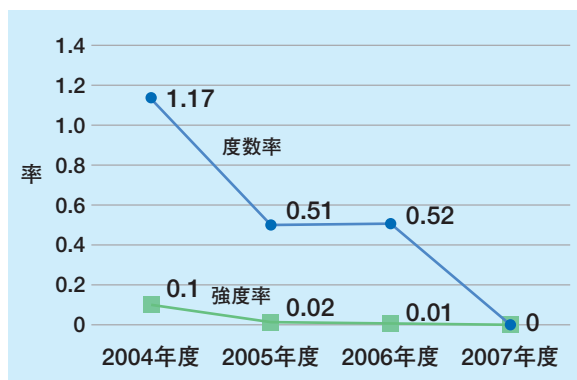
なお、安全衛生委員会議事録はフォーラムに掲載するとともに委員会だより(「工場ニュース」)を発行し全員に周知徹底しています。

〈参考〉

〈災害発生トータル件数〉



〈度数率・強度率※〉



※度数率：100万延時間当たりの労働災害による死傷者数  
強度率：1,000延時間当たりの延労働損失日数

〈健康／安全に係る支出額(2007年度)〉 (円)

項目	総額	人数	一人当たり
労災保険	38,365,190	1,244	30,840
安全対策費	121,800,000	1,244	97,910
健康診断	29,991,590	1,244	24,109

※人数は労災保険支払い人数に合わせた(技研除く)。

### 3. 設備安全教育開始

設備に関する基本的な知識・技能を習得し、安全かつ円滑な運転作業ができるようにすることを目的に設備安全教育がスタートしました。対象者は担当補クラスから指導職2級クラスの主に若年層の階層別教育に織りこんで教育していきます。

また、安全体感(危険作業の経験)設備による教育も行っています。



### 4. 災害事例研修会

過去に発生した労働災害を分析すると安全意識の低下によるものが多いことから課長・係長・職長を対象に安全意識向上を目的とした災害事例研究会を開催しました。

### 5. 社内安全衛生大会

毎年6月、7月に展開しています「チャレンジ・ゼロ災2008」運動の一環として、第18回社内安全衛生大会を開催いたしました。下松労働基準監督署長のご挨拶をはじめ、調圧課の事例発表、記念講演では診療所の黒川先生より「メタボリックシンドロームについてもKYからのリスクアセスメントを」と題しご講演をいただきました。多いに啓発された大会となりました。



### 6. 普通救命・応急手当講習

当社下松工場では、全従業員が緊急時に適切な初期救命措置がとれるようにすることを目的に、2004年4月から普通救命講習を実施しています。2005年からは社内で応急手当普及員資格取得者が、講師となり2007年には18回講習し、累積で41回、825名の方が受講済みとなりました。また診療所スタッフと協力し、協力関係会社従業員の方へも講習の輪を広げております。今後も継続実施します。

### 7. 防災訓練

#### 1) 災害・救急教育

自主防衛組織である防護団班長・副班長を対象に、上記救命・応急手当講習を基礎として、自分たちの工場や地域を守るためにどうするかといった教育を始めました。災害時における対応策の考え方、機材の使用方法などについて講習を開始しております。



#### 2) 実働型訓練

当社は、石油コンビナート等災害防止法における第2種特別防災協定地域にあたるため、隔年ごとに、総合防災訓練の実施を担当しております。消火活動はもとより、近年は負傷者救出に重点をあてた訓練内容としております。







### 3) 災害机上訓練

工場内で災害が起こった際、もしくは、自然災害が発生した際、近隣防災機関との連携をとりつつも、体制が整うまでも工場内だけでなく地域への被害拡大防止するためには、初動対応が重要となります。そのため、防護団本部役員・診療所員を対象とした机上訓練を、鳥取大学救急・災害医学分野の中田康城准教授を講師として2007年度に開始いたしました。(2007年12月19日、20日実施)

また、防護団事務局、救護班、広報班、消防隊副班長などを対象に、近隣防災機関員、医療者とともにトリアージ・エマルゴトレーニングにも参加し、工場内の対応だけでなく、地域機関との連携対応訓練も行いました。



### 9. 健康管理

当社ではメタボリックシンドロームの予防を目的とした、健康管理を推進しております。

#### 1) 健康講演会

2007年9月7日、東洋鋼鈹診療所の和田崇子所長を講師に「メタボリックシンドロームとウォーキングの効果」と題して講演会を開催しました。(受講者：200名)

また、7月・10月に本社で、11月には大阪支店で同様の講演会と健康指導を行いました。



#### 2) 禁煙マラソン

2004年9月から健康保険組合と診療所の共催で、従業員の喫煙者を対象に6ヶ月の禁煙マラソンを開催し、禁煙パッチの無償配布や禁煙中のメンタルケアを行っています。禁煙週間(5/31～6/6)中の昼休み時間を利用して、工場構内の食堂で医師や保健師による「呼気中の一酸化炭素測定」を行い、禁煙指導を実施いたしました。

#### 3) ウォーキング大会

本社、下松工場でウォーキング大会を実施しました。

- 【本社】第1回ウォーキング大会 2007年7月28日(土) 皇居周辺
- 第2回ウォーキング大会 2007年9月15日(土) 皇居周辺
- 【工場】米泉湖ウォーキング大会 2007年12月2日(土) 米泉湖周辺



## 6. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント

### ● サプライチェーンマネジメント

当社は、市場変動への迅速な対応と効率的な生産を目指して、サプライチェーンマネジメント活動を積極的に推進しています。原材料調達～自社生産・販売～顧客使用という一連の過程においても環境への配慮が重要であるとの認識にたつて、情報を共有する枠組みを構築しながら、環境負荷低減に取り組んでいます。

〈参考〉

#### 購買方針

1. CSR調達  
(法令順守、機密保持、環境保護、人権尊重)
2. 経済合理性追求
3. パートナーシップ構築・強化
4. 情報共有化・SCM推進

## 7. 品質マネジメントシステム

### ● QMS(品質マネジメントシステム)の新たな展開：製品含有規制化学物質管理について

近年、製品の環境配慮に関する顧客要求 (RoHS 指令、REACH 規制等への対応) が高まり、製品含有規制化学物質の管理体制の重要性が増してきました。

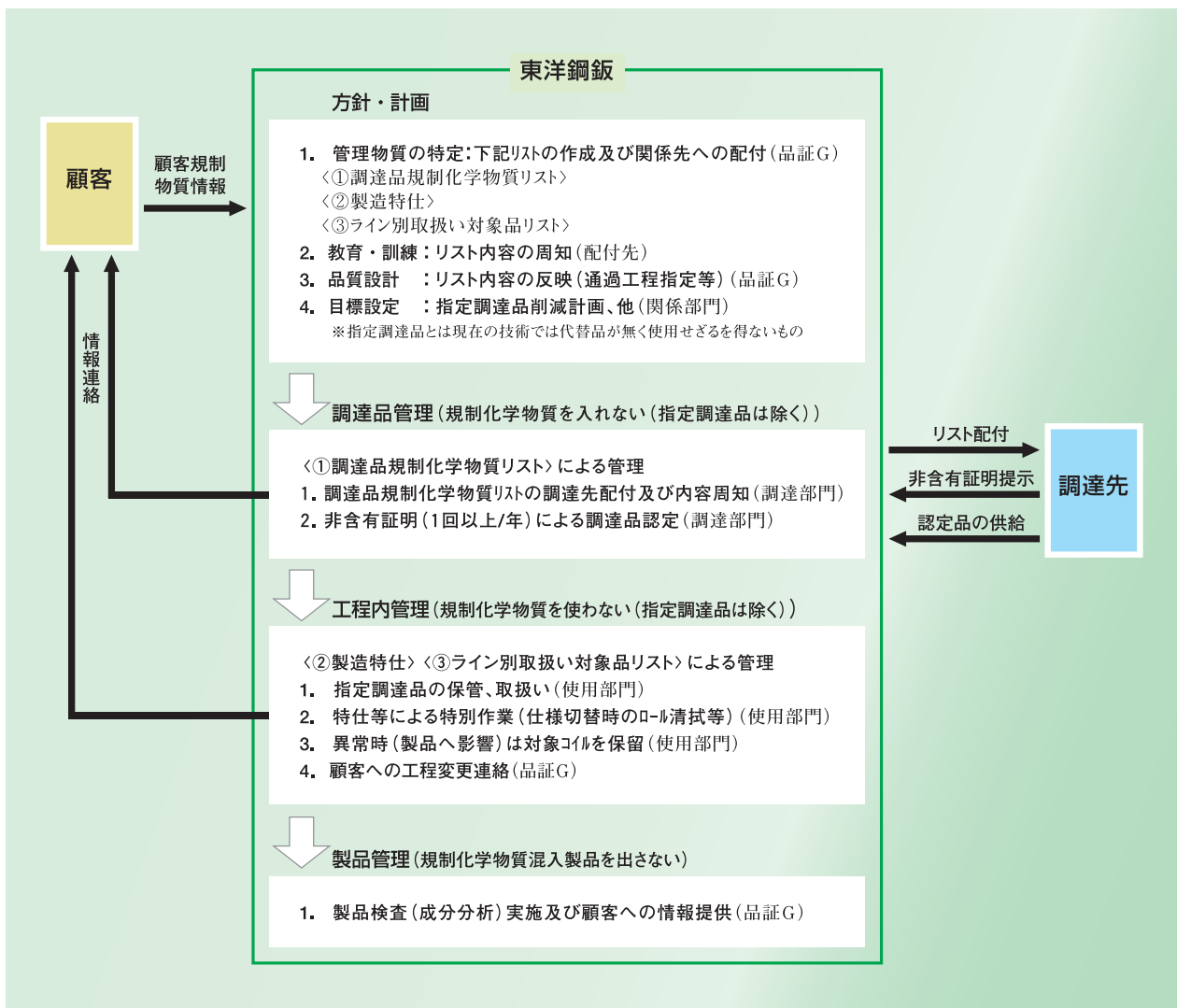
当社ではこれらの要求に的確に応えるため、QMSを核とし活動する方針を決め、QMSを有効活用するための見直し・改善に取り組んでいます。

#### 1. 取組み方針

- 顧客指定の規制化学物質を“入れない(調達品管理)”、“使わない(工程内管理)”、“出さない(製品管理)”
- 現行の技術でやむを得ず使用する規制化学物質は使用量の削減、代替品の検討、新たな技術の開発等により削減を検討・推進します。

#### 2. 管理体制の構築

- QMSにおける製品環境の位置付けの明確化
  - 製品環境は、顧客要求事項の一つであり、QMSの中で運用管理を行います。
- 運用方法
  - “品質マニュアル”を基本とし、詳細は主に“製品含有規制化学物質管理実施要領”(新規制定)に従って運用します。
  - 管理物質リスト(調達品規制化学物質リスト、製造特仕、ライン別取扱い対象品リスト等)で管理物質を特定し、調達から最終製品までのフローの中でそれを含有させないための厳格な管理を行います。管理概要は下図の通りです。

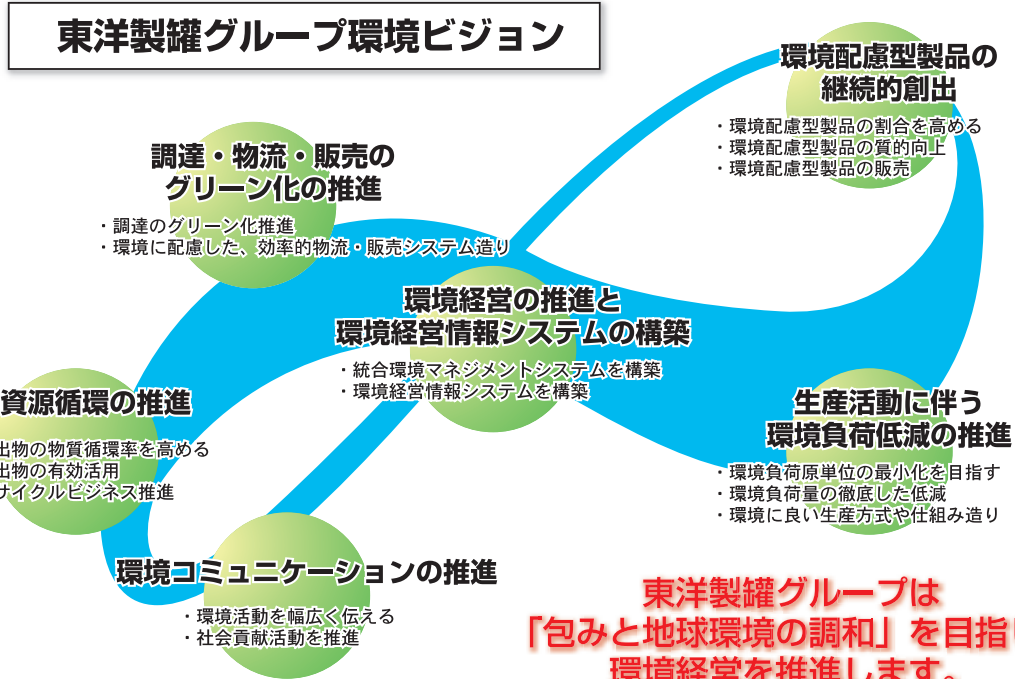






# 東洋製罐グループとしての活動

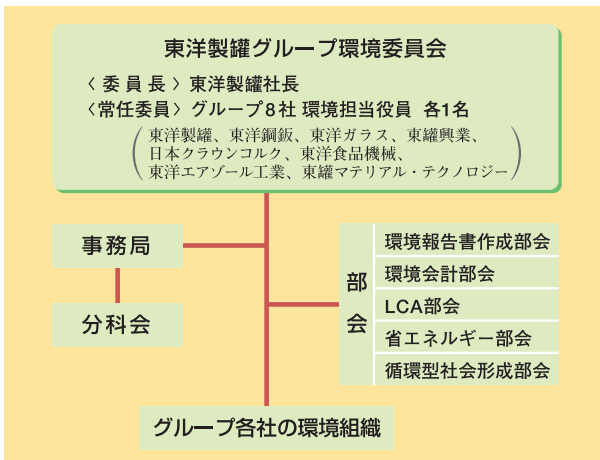
当社は、東洋製罐グループの一員として、2002年7月に組織された東洋製罐グループ環境委員会に参画し、環境経営の実現に向けた諸施策の検討および推進活動を展開しています。



## ● グループの環境経営の推進

グループ環境経営を推進するために、2002年7月に東洋製罐グループ環境委員会が組織されました。

東洋鋼板は常任委員として年2回開催される委員会において、環境経営の実現に向けた進捗状況を把握するとともに推進活動を展開しています。



東洋製罐グループの環境管理体制

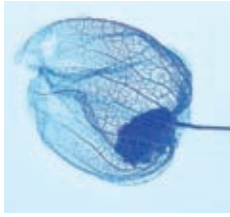
## ● グループ環境ビジョンの推進

東洋製罐グループでは、経営課題である「包みと地球環境の調和」を目指して、全員参加による環境経営の推進に取り組んでいます。

この環境経営活動を具体化するために、以下の6項目からなる環境ビジョンを2004年5月に策定しました。

- I. 環境配慮型製品の継続的創出
- II. 生産活動に伴う環境負荷低減の推進
- III. 調達・物流・販売のグリーン化の推進
- IV. 資源循環の推進
- V. 環境コミュニケーションの推進
- VI. 環境経営の推進と環境経営情報システムの構築

これらの環境ビジョンを実現するために2010年までの環境目標と行動計画をまとめた「東洋製罐グループエコアクションプラン2010」を2006年2月に策定しました。東洋鋼板では、2006年度からこのアクションプランに基づき活動し、目標を達成することにより東洋製罐グループ環境ビジョンの実現を目指します。



# 環境保全活動の歴史

## 環境保全活動

	設備関係	組織、体制関係
1934年	会社設立	
1959年	石炭ボイラーから重油ボイラーへ転換	
1960年	石炭発生炉ガスからLPGへ転換	
1964年	含油排水処理装置(自然浮上槽)設置	
1965年	硫酸処理設備設置(硫酸鉄のリサイクル開始)	
1970年	含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置	
1971年	総合排水処理設備設置 (還元-中和-凝集沈殿-脱水)	
1972年	ボイラー130m煙突設置 含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)増強 ビニトップライン湿式電気集塵装置設置	
1973年	総合排水処理設備増設(2系列化) 硫酸処理設備増強 二宮町境界線沿い防音壁設置 クロム流出事故(改善命令)	環境管理室を設置 当直課長、公害担当交替係長制導入
1974年	アルカリ含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置 総合排水処理設備(還元-中和槽)増強 二宮町境界線沿い騒音常時監視システム設置	
1976年	低硫黄重油自動混焼装置設置	
1979年		公害担当交替係長制から 交替係長制に変更
1981年	スカム酸処理設備設置 (廃油スカムのリサイクル開始)	
1986年		「ハイペット」営業生産設備稼働
1989年	フィルタープレス脱水機導入	
1991年		第1回CBC実施 (CBC: Can Back Campaign)
1993年	磁気ディスク用基板製造工場 排水アルカリ処理設備設置	新当直制度導入(交替係長制廃止)
1997年	磁気ディスク用基板製造工場 排水生物処理設備(没水濾床式)設置	
1999年		下松工場ISO14001認証取得 (12.22)
2000年	No.3焼却炉廃止(可燃性廃棄物社外委託処理開始)	「ファイントップ5、6」 営業生産開始
2001年		「シルバートップエコ」 営業生産開始
2002年	No.1、2焼却炉廃止(廃油の社外委託処理開始)	下松工場環境報告書発刊 東洋製罐グループ環境委員会発足
2003年	LPGからLNGへ転換	本社に環境部を設置 東洋鋼鋳グループ環境会議発足
2004年		東洋鋼鋳グループ統合 ISO14001認証取得(12.16) 東洋鋼鋳全社環境報告書発刊
2005年	樹脂リサイクル設備設置 保護ガス製造設備更新	
2006年		東洋鋼鋳グループ環境報告書発刊

#### 報告書の要件

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 対象組織 | 東洋鋼鋸グループ (ISO14001 グループ統合認証取得 8 社 *)<br>* 連結対象範囲とは一部異なります。   |
| 2. 対象期間 | 2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日<br>(一部 2008 年 8 月までの情報も含まれます)   |
| 3. 発行日  | 2008 年 10 月 (次回発行予定は 2009 年 10 月)  |
| 4. 対象分野 | 環境的側面を中心に社会的側面も報告の対象としています。  |
| 5. 作成部署 | 東洋鋼鋸株式会社 管理本部 CSR・環境室  |
| 6. 連絡先  | 東洋鋼鋸株式会社 管理本部 総務部<br>〒102-8447 東京都千代田区四番町 2 番地 12<br>TEL 03-5211-6200 FAX 03-5211-0181<br>ホームページアドレス <a href="http://www.toyokohan.co.jp">http://www.toyokohan.co.jp</a> |



 **東洋鋼鉄株式会社**

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12

TEL 03-5211-6200 FAX 03-5211-0181

<http://www.toyokohan.co.jp>

…………ご意見をお寄せください。…………